

6月12日（月）その29 1,239枚の写真－校長がかわれば学校が変わる－

島尻地区内の校長先生方に FAX 文書を送り、所長講話の HP アップを自校の職員へ周知してくれるよう依頼した。6月から HP にカウンターをつけ、訪問する人の数をチェックしてもらっている。おかげさまで最初の一週間で130名以上の方に訪問していただいた。感謝、感謝、感謝!!

「私も営業をせねば！」と思い（笑）、よく知っている他地区の校長5～6人に FAX を送信し、所長講話の HP アップをご案内した。すぐに2～3人の校長からメールが届いた。その中の一つを紹介しよう。

うれしいお便りありがとうございます。あれから4年目、私の校長講話は3年間で30回を越えました。去年は宮城県で開催された全国校長研究大会でも学校経営について発表し、また山口県で開催された「鍵山教師塾」にも呼ばれて発表させていただきました。子ども達の無垢な頑張る姿は何よりも説得力があり感動です。先生から教えていただいたことが日を追って宝物になっていきます。心から感謝いたします。……HPの「嘉数中日記」のブログも私の担当です。ご助言いただけると嬉しいです。ありがとうございます。頑張ります。 嘉数中 仲田丘（つかさ）

「嘉数中日記」と入力して HP を検索してみると、まさに日記だった。写真が数枚あって、校長の短いコメントがつけられている。ビックリしたのはその回数である。なんと313回アップされている。10回分くらいずつひとまとめになっていて、[1][2][3]……[32][33]とタブがついている。313回分を一つ一つ開くのは大変だったが、4日かけて全部見た。

仲田校長が赴任して、嘉数中がとても素晴らしい学校になっていると風の便りで聞いてはいたが、「嘉数中日記」を読んで納得した。……すごい!

「校長がかわれば学校は変わる。」と改めて実感した。

よく「凡事徹底」と口にするが、誰にでもできる凡事を徹底して実践していくことは簡単なことではない。凡事は徹底すれば、非凡なものになる。

一枚一枚数えてみると1,239枚の写真がアップされていた。「苦労を苦労と思わない」校長の走り続ける姿が見え、一枚一枚に込められた「想い」が読み取れる気がした。

「生徒達の真剣な表情、笑顔の表情を撮りたい」、「それを保護者や学校関係者に見てもらいたい」という想い。もちろんその裏には、「実践」が透けて見える。仲田校長のよさを生かして「授業や掃除や校長講話」などを“ど真ん中”に据えた学校経営。校長のその熱い想いが、職員に伝播し、一人一人の生徒達を動かしていったのだろう。「チーム嘉数中」の総力を挙げた実践の結晶が、「生徒達の頑張る姿」なのである。……素晴らしい!!

1,239枚の写真の中に中学校生活のすべてが網羅され、そして校長の経営哲学が短い言葉で繰り返し語られている。これらの写真を撮るために、この記事を投稿するために、どれだけ自身の命（＝時間）を使ってきたのだろう。154、299、302回目に出てくる、1000人分のカレーを作る取組。194回目の全校生徒の地区陸上応援。244回目のペットボトルのキャップ269,964個。253回目の「嘉数中に風が吹いている」……子ども達の一生懸命な姿に涙が出た。校長の強い思い、凡事徹底の信念が、学校を変えたのだ。

6月13日（火）その30 なぜ人を殺してはいけないのか？

福岡県南部の小都市（こごおり市）で、信じられないような事件が起きた。自宅で母親と子ども二人が死んでいるのが発見され、警察は当初、現場に争った跡がなく練炭のようなもの（実際には木炭だった）が置かれていたことから、母親による無理心中と判断した。

父親は警察官で、普段通り出勤していた。父親は、「子ども達が登校していない」と学校から連絡を受けると、妻の携帯に数回電話をした後、近くに住む妻の姉に電話をして、見てきてくれるように頼んだ。姉が妹の家に駆けつけると、家の中は煙が充満して練炭のようなものがあったことから、姉は警察に、「妹が自殺を図った」と、通報したとのことである。

父親は「妻は育児で悩んでいた」と、暗に育児ノイローゼであるようににおわせていたとのことである。

しかし司法解剖の結果、3人とも首を絞められて窒息死していることが判明し、殺人事件に急展開した。さらに妻の首の骨にひびが入っていたこともわかり、警察は強い殺意があったとみて捜査を続けた。

司法解剖でわかった死亡推定時刻と夫の発言には、矛盾があった。また殺された妻の爪先には微量の皮膚片がついていて、DNA検査の結果、夫のDNAと一致した。福岡県警は県警の巡査部長である父親を殺人の容疑で逮捕した。夫は容疑を否認しているものの、子育てを巡り妻と不仲だったと述べ、また事件の2日前に警部補への昇進試験の2次試験に不合格になっていることがわかった。安っぽいサスペンスドラマのような展開になってきた。

私は上野正彦さんという法医学の専門家が30年ほど前に書いた「死体は語る」という本を思い出した。上野さんは、「生きている人の言葉には嘘がある。しかし物言わぬ死体はけして嘘を言わない。丹念に検死をし解剖することによって、なぜ死に至ったのか、死体自らが語ってくれる。その死者の声を聞くのが監察医の仕事である。話をじっくり聞いて死者の生前の人権を十分に擁護するとともに健康であるための方法を生きている人のために少しでも還元することができれば、医師としての使命を十分に果たすことができると思っている。」と、語っている。（文庫版「死体は語る」より）

なぜ人を殺してはいけないのか？突き詰めて考えると、以外と難しい質問である。日本の法律には、殺人罪があり、人を殺すと罰を受けるが、「なぜ人を殺してはいけないのか」という理由はどこにも書いてないようである。

私は校長講話で、沖縄県で起きた4つの集団暴行致死事件を毎年取り上げ、中学生に「なぜ人を殺してはいけないのか」を次のように語ってきた。

- 一度死んだらリセットなどできない。もう生き返らない。ドラゴンボールは漫画の話。戦っても傷一つつかないゲームの主人公は、何度もリセットできる。人間の命は、リセットできない。だから、人を殺してはいけない。
- 数えられないくらい多くの祖先の命のバトンパスで、今を生きている。親でも、同じ人間をつくることはできない。だから、人を殺してはいけない。
- 人は平等ではないが、誰でも幸せになる権利がある。誰もそれを奪ってはいけない。殺されたい人間などいない。だから、人を殺してはいけない。

最近、「ムカつく、キレた」、「誰でもいいから人を殺してみたかった」という短絡的な殺人事件が増えてきているように思うが、どうだろうか。

6月15日（木）その31 スマホを落とただけなのに

日曜日に本屋さんに行き、本を5～6冊仕入れてきた。できるだけ文庫本などの薄い本を買うようにしている。全部読んだら、また仕入れに行く。私は毎日読書をしており、最低でも寝る前の数十秒は必ず読んでいる。(笑)
最近、志賀晃（しが・あきら）の「スマホを落とただけなのに」という本を読んだ。今日はその話をしたい。

皆さんのスマホの中の個人情報を丸ごと……電話帳の名前も番号も、メールの中身も、ラインの通信記録も、プライベートの写真も、すべてを他人に見られたとしたら……？

物語は、稲葉麻美という主人公の恋人富田誠がタクシーの中でスマホを落とし、ある男がそれを拾うところから始まる。その男は、連続女性殺人事件の犯人であり、コンピューターに精通しているハッカーでもあった。

男はいとも簡単に富田のスマホの暗証番号を探り当て、スマホの中の情報を引き出すことに成功する。中でも富田の恋人である麻美に強い関心を示し、彼女の写真や富田とのラインでのやりとりなどを盗み見る。そしてそのスマホにウイルスを仕掛け、自分の姿を見られることなく富田に返却する。セキュリティを丸裸にされた富田のスマホからの新たな情報や身近な SNS などが、麻美を陥れる凶器へと変わっていく。今は疎遠になっている麻美の知り合いの名前や写真を使って、「なりすまし」で麻美への接近が始まる。犯人がどのような不正アクセスで麻美の個人情報を暴いて接近していくのか、その過程が非常にリアルに描写されている。後は読んでのお楽しみ！

この小説は、日本の社会は安全であるという思い込みとスマホに依存している現実を読者に突きつけ、実際にはとてつもないリスクを背負っているのだというメッセージが込められている。

私は昔、親兄弟や友達の固定電話の番号を全部暗記していた。今は妻や子ども達の携帯番号さえわからない。スマホに覚えさせているのである。もしスマホを落としてしまったら、……誰の携帯にも連絡をすることができない。私だけではなく、他の人も似たような状況ではないだろうか。

またスマホのない生活など考えられない生活習慣になっている人が多いのではなかろうか。東京などの電車の中で昔は本を読む人も多かったが、今は若いも若きもほとんどの人がスマホをいじっている。

今の若い人の中には、「スマホ依存症」になっている人もいると考えられる。スマホなしでは一日が過ごせない。スマホに触れていないと心配で、他のことが手につかない。また常時 SNS やサイトなどの更新状況が気になる。運転中でもスマホをいじる。対面にいるのにメールやチャットで会話する。風呂やトイレまで持ち込むなどなど……。しまいにはフェイスブックやツイッターでしか話ができなくなり、実生活での人との交流が減っていく。うつ病やパニック障害、自律神経失調症などを引き起こすこともあるという。

日本でスマホが発売されたのが平成 20 年。皆さんの子ども達は、生まれた頃からスマホのある生活をしているのだろうか。彼らが大人になる頃には、どうなっているのだろうか。今の情報化社会でのスマートフォンについては、世界中のどの国にも依存症の検証事例がなく、いきなり数十億人に人体実験をしているようなものだと、何かで読んだ記憶があるが……。